

# 幼児の相互交渉に関する研究

--- その1 5歳児の砂場場面における行動・発言分析 ---

強矢秀夫

(日野市立幼児教育センター)

[目的]

幼児の相互交渉について、特に砂場場面に着目して、目標設定(有・無)、遊具(有・無)、性別(男児・女児)、友人関係(友好・統制)等の要因がどのように影響しているかを実験的に検討することを目的とした。

[方法]

1. 予備調査

(1)調査内容 実験に先だって、2回(1カ月間隔)にわたり、課題の好みと友人関係について、個別の聞き取り形式で同一の調査を実施した。課題の好みについては、砂遊びを含む幼児の主要な遊びを「実施場所」と「集団性」の2次元によって分類

表1 遊びの種類と特性

集団性	場所	主として室内で実施	主として屋外で実施
	個人又は集団	絵画制作	砂遊び
主に集団で実施	ごっこ遊び	ボール遊び	

注: ごっこ遊びはクラス内でよく実施されているものと特定した。

し(表1参照)、一対比較法で選択させた。友人関係については、友人数を制限せず自発的に親しい友人名をあげさせた。

(2)被調査児 公立幼稚園5歳児 74名(男児41名、女児33名)

(3)結果 課題の好みについては、第2回目の砂遊びの選択頻度をもって課題の選考度とした。友人関係については、ソシオグラムを作成し、2回とも同一の友人名をあげている者を安定した友人関係とした。全体傾向として、砂遊び

表2 実験群の構成(N=48)

目標設定	遊具	性別	友人関係	人数
有	有	男児	友好	3
			統制	3
		女児	友好	3
			統制	3
	無	男児	友好	3
			統制	3
無	有	男児	友好	3
			統制	3
		女児	友好	3
			統制	3
	無	男児	友好	3
			統制	3
女児	友好	3		
	統制	3		

の選択頻度は低く、友人関係は同一クラスの同性の名をあげる者が多かった。

表3 分析カテゴリー一覧

分析カテゴリー	定義	下位カテゴリー
1 独語・単独行動	相手からのリアクションを期待しない(応答を求めない)発言・行動	a つぶやき b 笑い c 感嘆
2 よびかけ	相手に対して、自分の意志を伝達しそのリアクションを求める発言・行動	a 質問 b 要請 c 命令(指示) d 自発的発言・行動 e 勧誘 f 賞賛・非難
3 応答	相手からのよびかけに対してリアクションとして返す発言・行動	a 受容 b 拒否 c 沈黙

表4 全体評定項目一覧

NO	評定項目
1	活動は活発だったか?
2	課題に熱中していたか?
3	課題に対する自発的、独創的な発言・行動がみられたか?
4	課題達成に必要な役割設定があったか?
5	集団としての目標が明確だったか?
6	ポジティブな対人関係(援助、受容、協調など)があったか?
7	ネガティブな対人関係(対立、拒否、攻撃など)があったか?

2. 実験

(1)実験群の構成 予備調査の結果から、1群の構成員を同一クラスの同性者3名とし、実験群を構成した(計16群48名)。要因配置を表2に示す。目標設定については、絵画のプレート(山、道、トンネルの描かれたもの)を目標として提示した。遊具については、園内で使い慣れているもの(シャベル、スコップ、バケツ、じょうろ、皿、カップ)を3名分提示した。友人関係については、予備調査の結果から友好群(計8群24名)を構成し、統制群はランダムに配当することとした。

(2)被験児 公立幼稚園5歳児 48名(男児24名、女児24名)

(3)実験期間 昭和61年10月27日-11月17日(計10日間)

(4)実験場所 幼稚園内の砂場(3.4m X 5.2m)

この砂場には上部に鉄製の藤棚が設置されてある。

(5)実験機材 ・VTRカメラ(1セット)

・カセットテープレコーダー(1台)

VTRは園児の声や活動が記録しやすいようにその都度位置を変更した。また補助用として、カセットテープレコーダーを藤棚(園児の頭上1mの位置)に、園児の活動に支障がないように留意して設置した。

(6)手続き まず実験前に砂場をならし、砂場の条件を統一した。次に目標設定及び遊具がある場合は事前に設置した。準備終了後、実験者が被験児(3名)を条件群別に砂場に誘導した。条件群の実験実施の順はランダムである。条件群別に与えた教示は以下の通りである。

- ・被験児に名前を呼びかけ本人を同定する。(各群共通)
- ・これから3人で砂遊びをしてください。(各群共通)
- ・あそこに絵があります。あの絵のようなものを作ってください。(目標設定-有の群)

- ・ここに遊具が置いてあるので、これを使ってもいいです。(遊具-有の群)
- ・実験者の促し(では始めてください。)で実験を開始した。(各群共通)

実験中は幼児の行動・発言をVTRに記録し、他の園児が砂場に入らないように制限した。実験終了の決定は幼児の自発的な申し出にまかせた。同時に実験者は実験開始時間と終了時間を記録した。

[結果]

(1)行動・発言分析 VTR記録を分析するため、表3のような分析カテゴリーを考案し、幼児の行動・発言を1分間単位でコーディングした。さらに個人別の総発語数についても算出した。これらの集計結果をもとに2X2X2X2の要因配置(目標設定と遊具と性別と友人関係)の分散分析を実施した。有意差のみられた項目は表5に示す通りである。

(2)全体評定 条件群ごとの活動全体について、表4に示すような全体評定項目を考案し、7件法で評定した。この評定結果をもとに2X2の要因配置(目標設定と遊具、目標設定と性別、目標設定と友人関係、遊具と性別、遊具と友人関係、性別と友人関係)の分散分析を実施した。従って各要因内は4群の配当となる。有意差のみられた結果は、目標設定と遊具、目標設定と友人関係、遊具と友人関係の間であり(表6参照)、他の要因の組合せ(目標設定と性別、遊具と性別、性別と友人関係)については有意差は認められなかった。また全体評定項目間の内部相関を算出した。相関係数を表7に示す。

[考察]

(1)行動・発言分析について 表5をみると、まず4つの要因が独立して影響しているものが少ないことがわかる。目標設定、遊具、性別ともに有意差が少なく、友人関係についてはいずれの有意差も認められない。このことから、幼児の行動・発言においては、特に影響を与える単独の要因が存在するとは考えられない。次に要因間の交互作用についてみると、目標設定と遊具、遊具と友人関係に有意差が多数みられている。このことは、遊具の存在がキーポイントとなって、それに目標の有無や友人関係の友好さが関連していることを意味している。しかしこの3要因の交互作用に有意差が少ないことから、目標設定と友人関係は遊具との関係において影響すると考えるべきであろう。

(2)全体評定について 表6をみると、やはり遊具との関連において多くの有意差が認められる。評定1(活発性)や評定2(熱中度)、評定3(自発性・独創性)においては、遊具の有無が行動・発言と同様に目標設定や友人関係と連動して、活動内容に影響すると解釈される。表7では、評定1(活発性)と評定2(熱中度)、評定2と評定3(自発性・独創性)とが高い相関を示している。この点は今後の検討を要する。また評定6(ポジティブな対人関係)と評定7(ネガティブな対人関係)の相関が低いことから、これらは独立の2次元として考えるべきであろう。

今後の課題としては、分析カテゴリーの精度検討、遊具についての詳細な分析(使い慣れていないもの)、目標として対象物の検討(自分たちで設定した場合)、他の年齢児による発達の検討等が必要であろう。

表5 分析カテゴリーの有意差一覧 (A:目標設定 B:遊具 C:性別 D:友人関係)

カテゴリー	A	B	C	D	A*B	A*C	A*D	B*C	B*D	C*D	A*B*C	A*B*D	A*C*D	B*C*D	A*B*C*D
1	a				**			**	*			**	+		
	b						**								
	c				**	*	**	**							
	計				**	*	**	+	+		**				
2	a				+										
	b	*		*		**		*	*	+			*	*	
	c											*			
	d				**		**	*							
	e			+				*	*						
	f								+	*		+			
	計				**		*	+	+	*	*		+		
3	a	*	**	**	**	**	**	*	*		*		*		
	b	*			**	*	**	*	*		*		*		
	c			**	*	**	**	*	*	+	*		*		
	計		*	**	+	**	**	**	**	**	**	**	*		*
発語数				**		*	**	*	*	*	*	+			

+ : p < 0.1, \* : p < 0.05, \*\* : p < 0.01

表6 全体評定の有意差 (A:目標設定 B:遊具 D:友人関係)

	目標/遊具			目標/友人			遊具/友人		
	A	B	A*B	A	D	A*D	B	D	B*D
全体評定	1	*				*	*		
	2	*					*	*	*
	3						**	**	**
	4		*						
	5								
	6						**		
	7						**		

\* : p < 0.05, \*\* : p < 0.01

表7 全体評定項目の内部相関係数

	2	3	4	5	6	7
1	.600 *	.407	.299	.024	.135	-.079
2		.560 *	.217	.011	.135	-.183
3			.049	.013	.459	.235
4				.277	.414	-.375
5					.538 *	-.049
6						-.194

\* : p < 0.05, \*\* : p < 0.01